

## 第1回木更津市学校給食費検討委員会会議録

日 時 平成28年5月30日（月曜日）14時から16時10分

場 所 木更津市役所朝日庁舎 会議室E

### 出席者氏名

#### 検討委員

東清小学校長：渡邊文男 波岡中学校長：武田重雄

木更津市PTA連絡協議会：白石和義、鈴木志乃、関隆行、谷口美江、池田京

金田小学校栄養教諭：坂井幸栄 高柳小学校栄養士：林明香

#### 事務局

教育長：高澤茂夫 教育部長：堀切由彦

教育部次長：斉藤良二 学校給食課長：岡田正浩

学校給食課：吉原隆史、地曳美千代、山之上幸

### 議題及び非公開の別

議題（1）会長・副会長の選出 公開

（2）諮問「小中学校における給食費の適正な額等について」 公開

（3）学校給食費の改定の検討資料について 公開

（4）今後の審議スケジュール 公開

### 【木更津市学校給食費検討委員会委嘱状交付式】

教育長より、渡邊文男委員、武田重雄委員、白石和義委員、鈴木志乃委員、関隆行委員、谷口美江委員、池田京委員、坂井幸栄委員、林明香委員へ委嘱状が交付された。

### 1. 開会（14：05分開始）

（事務局：岡田課長）

ただ今より第1回木更津市学校給食費検討委員会を開会いたします。なお、本日が第1回の会議ですので、会長・副会長が決まっておりません。会長を決定するまでの間は事務局の学校給食課長の岡田が議事を進行させていただきます。

本日の出席委員数は9名です。過半数に達しておりますので、木更津市学校給食費検討委員会条例第6条第2項の規定により会議は成立しております。欠席者は鶴岡委員1名です。

また、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定により、会議は公開で行います。また、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第6条の規定により会議録を作成いたします。

それでは、高澤教育長よりご挨拶を賜ります。

(高澤教育長)

本日は大変お忙しい中、またお足元の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。また検討委員の方々におかれましては、委員の委嘱について快くお引き受けくださり、重ねて感謝申し上げます。本市の学校給食の形態は、センター給食、親子給食、単独給食と全国的にも大変珍しい形をとっております。しかしながら、給食費の現在の額については平成20年度に決定してから今日まで一度も改定せずに参加しました。また平成26年度には消費税が5%から8%へ増額されております。とりわけ栄養士の方々は、大変なご苦勞をされながらやりくりなさっていることと存じます。

また昨今では、政府が消費税を10%に値上げするかどうか協議を重ねている最中でございます。そのような厳しい社会情勢や、家庭での経済状況、近隣市の状況等も踏まえながら、本市の学校給食費の適正な価格を本検討委員会にて十分に審議していただきたく思います。会議の開催はおそらく3回程度になるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

(事務局：岡田課長)

次に、本委員会の事務局職員をご紹介します。(座席順に自己紹介)

次に、委員の皆様にご自己紹介を賜りたく存じます。(座席順に自己紹介)

それでは議事に移ります。

## 議題1. 会長・副会長の選出について

会長・副会長については、木更津市学校給食費検討委員会条例第5条第2項の規定により、委員の互選により定めることとなっております。選出の方法について、いかがいたしましょうか。(事務局に一任の声)

ありがとうございます。他にご意見がないようですので、事務局案をご提示いたします。

(事務局：地曳副主幹)

私から事務局案を提示いたします。会長には、木更津市立東清小学校の校長先生でいらっしゃいまして、木更津市校長会の学校給食部会長をお務めいただいております渡邊文男委員、副会長には保護者代表であり木更津市PTA連絡協議会会長でいらっしゃいます白石和義委員をお願いしたいと存じます。

(事務局：岡田課長)

ただ今の事務局案につきまして、ご異議はございませんでしょうか。(異議なし)

それではご異議なしと認め、渡邊文男委員を会長に、白石和義委員を副会長に選出をいただきました。次の議題からは、木更津市学校給食費検討委員会条例第6条の規定によりまし

て、渡邊文男会長に議長を務めていただきたいと存じます。

私はこれにて議長の任を降りさせていただきます。渡邊会長、よろしくお願いいたします。

(渡邊会長)

本委員会の会長に就任いたしました東清小学校長の渡邊と申します。よろしくお願いいたします。これより議長として本委員会を進めさせていただきます。

## 議題2. 諮問「小中学校における給食費の適正な額等について」

(渡邊会長)

それでは、諮問「小中学校における給食費の適正な額等について」を議題に供します。

〈高澤教育長より渡邊会長へ諮問書の交付〉

〈諮問書の写しを各委員へ交付〉

(渡邊会長)

この諮問書につきまして、事務局より補足説明をお願いいたします。

(事務局：岡田課長)

私からご説明いたします。学校給食費については、平成20年に児童及び小学校に勤務する者年額48,400円(一食あたり253円)、生徒及び中学校に勤務する者又は給食センターに勤務する者58,300円(一食あたり305円)と定めて以来、一度も改定されておりません。

現在に至るまでの物価上昇、平成26年4月の消費税増額改定により現場の栄養士から献立作成が困難との声が聴かれます。また社会情勢では、消費税が10%になるかどうかという論議の最中ですが、平成26年に消費税増額改定を行った際にも給食費の改定を行っていないことから、平成29年4月1日に向けて、学校給食費の額等が適正であるか否か検討いたします。

本委員会につきましては、学校関係者として小学校及び中学校の校長先生から1名ずつ、保護者として木更津市PTA連絡協議会から6名の委員、そして現場をよく知る栄養士から2名の委員の計10名の委員で構成されております。

学校給食費の額については、今後改定すべきかどうか、改定する場合はその金額について、また学校給食費に市一般会計からの補助金を導入するか等について、それぞれの立場からご意見を伺い、答申をいただくとするものです。

なお、次の議題で学校給食費の検討資料についてご説明いたします。本日はこの資料に基づき、委員各位のご意見を頂戴したいと考えます。そして次回の会議には本日いただいたご意見を踏まえながら、学校給食費の改定の事務局案を提示し、皆様からの意見をいただき答申をまとめていただければと考えます。

(渡邊会長)

説明は終わりました。ご質疑があればお願いいたします。〈質疑なし〉

質疑終局と認めます。ここで教育長並びに教育部長、教育部次長は次の公務のために退席

いたします。(教育長、教育部長、教育部次長退席)

### 議題3. 学校給食費の検討資料について

#### ①アンケート調査結果について

(渡邊会長)

まずは資料のアンケート調査結果につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：地曳副主幹)

それでは私からアンケート調査の結果について、ご説明させていただきます。

5ページをご覧ください。この調査は平成28年2月8日から2月29日の調査期間をもち、1校1学年につき3名の児童生徒の無作為抽出にて選定し、無記名回答での提出をお願いいたしました。

アンケート調査の回収率は97.6%、質問項目は9問あり、配布の調査用紙の質問2から質問7までは児童生徒が回答し、それ以外は保護者の回答となっています。統計調査では対象の1%の調査をすればその意思を確認できることになっております。今回は対象者の10,000名の概ね5%を対象としましたので、調査の精度は確かなものと考えます。

9ページをご覧ください。調査結果について小中学生全体の回答率でお話させていただきます。質問1の給食の味について、「おいしい」が56.0%「ふつう」が37.1%「おいしくない」が6.7%でした。質問2の給食の量について、「ちょうどよい」が68.1%「少ない」が23.6%「多い」が7.0%でした。質問3のおかずの品数について、「ちょうどよい」が76.2%「少ない」が21.1%「多い」が2.0%でした。質問4のおかずの温度について、「ちょうどよい」が62.9%「ぬるい」が35.3%「熱い」が1.4%でした。質問5の給食時間を楽しみにしているかについて、「楽しみにしている」70.8%「どちらともいえない」が26.1%「楽しみにしていない」が2.9%でした。質問6の給食のごはんとパンはどちらが好きですかについて、「ごはん」が40.5%「どちらも好き」31.7%「パン」が25.4%「どちらも好きではない」2.2%でした。質問7の食材料費小学校253円、中学校305円の負担金額についてどう思うかについては、「適当な額」が75.7%「安い」が16.2%「高い」が7.9%でした。

また、児童生徒の意見感想には、高学年や中学生になって量が少ない。ごはんやパンの量を増やしてほしい。品数を多くしてほしい。毎日給食を楽しみにしている。お楽しみ給食を増やしてほしい。ご飯やパンの回数を増やしてほしい。パンの種類を増やしてほしい。安い金額でありがたい。品数、量が多くなるならば金額をあげても良い。などが挙げられていました。

また、自由記載欄の意見・感想には、国産の食材を使ってほしい。メニューの種類が以前から減ったように感じる。メニューの種類をもう少し増やしてほしい。魚料理を多く出してほしい。デザートの回数を増やしてほしい。

この他、献立について、栄養を考えていただき感謝している。バランスが取れている。自校給食なので、温かくておいしい。嫌いな料理(野菜)も学校給食では食べてくれる。家でも作ってほしいとリクエストされる。などが挙げられておりました。

以上がアンケート調査の結果です。

(渡邊会長)

説明は終わりました。ご質疑をお願いいたします。

(白石委員)

この調査結果は、センター給食と自校式給食との区別はないのでしょうか。

(事務局：地曳副主幹)

この結果に区別はございません。

(白石委員)

品数については、センター給食と自校式給食で差があるのかお聞きしたいと思います。

(谷口委員)

白石委員と同意見です。

(池田委員)

私はどちらも食べたことがあります。個人的な感覚では、センター給食と自校式給食の品数にあまり差はなかったように思います。しかし自校式のほうが量が多いかもしれないと感じました。

(事務局：地曳副主幹)

品数については、センターと自校式で差はないかと思えます。量につきましても、各施設で栄養価に基づいて提供しておりますので、偏りはないかと思えます。

(白石委員)

品数は何品程度提供されているのでしょうか。

(事務局：地曳副主幹)

概ね副菜は2品から3品、デザートを入れて4品の場合もあると思えます。

(谷口委員)

給食の残菜率は市全体として把握しているのでしょうか。

(事務局：地曳副主幹)

把握しておりますので、平成26年度の実績についてお答えいたします。センターと単独校を合わせて年間193t程度です。それを11ヶ月で割り返すと、月別平均で17.5t程度となっています。

(事務局：岡田課長)

補足説明をいたします。市全体で54,407tのごみが年間で排出されています。このうち、燃やせるごみとしては4,573tです。給食センター校の残渣量は、123tで、自校式給食の残渣量は69tです。従って学校給食の残渣量としては合計で193tです。そのうち、給食センターと祇園小学校では残渣を肥料にしております。肥料化残渣量が23

tで、全体の残渣量から23tを差し引くと、170tが焼却される残渣となります。これは木更津市の燃やせるごみの0.38%を占めているという計算になります。

(坂井委員)

現場の立場から補足をさせていただきます。基本的に栄養士は毎日の残菜を料理別に計量しています。金田小学校の例を挙げると、カレー等の人気メニューでは小中学校ともに残菜率は非常に少なく、一桁台です。残菜率がゼロのときもあります。副菜では、切干大根やひじき等の乾物料理だったりすると、中学校で10%程度、小学校では25%くらいになるときもあります。小学校低学年では乾物をあまり食べ慣れていないためであると考えられます。日によって残菜率は大きく変わりますが、残菜率が12%~15%程度になると「残菜が多い」と感じます。

(谷口委員)

牛乳の残菜はどの程度あるのでしょうか。

(坂井委員)

牛乳は暑い時期だとあまり残りませんが、寒い時期の牛乳は残りやすい傾向にあるようです。また、メニューによっても牛乳の進みやすい日もあれば逆の日もあり、カレーのようにスパイスが効いた献立だと飲みやすく、飲み残しが少ない傾向にあります。

金田小学校は約250人の喫食者数ですが、飲み残しの少ない日だと200ccの牛乳が10本程度です。金田中学校は、現在暑い時期に差しかかっていますので飲み残しは少ないのですが、更に踏み込んで状況をみると、クラスで牛乳を飲まない生徒の分を牛乳が好きな生徒が貰って飲んでいることもあるようです。学校の実情は以上です。

(渡邊会長)

その他の質問はありますか。

(事務局：岡田課長)

参考までに委員の皆様にお聞かせいただきたいことがございます。保護者アンケート最後の設問の学校給食費の負担金額についてどうお感じになるか、せっかく保護者の代表の皆様がいらっしゃっていますので、是非率直なご意見をお聞かせいただきたく思います。

(渡邊会長)

保護者アンケートを見ると、「適当な額である」「安い」を合わせて91%の回答率となっています。保護者の方々がどうお感じになるか、順にお話をいただきたいと思います。

(白石委員)

実際に食べたことがないので何ともいえません。

(鈴木委員)

美味しくて、全部食べて帰ってきた子に対しての給食費だったらすごく安いと思います。しかし、苦手な食べられずに何トンとゴミが出ている給食であれば、高いと思います。日々料理をするお母さんたちにメニューを聞いたりだとか、残菜を減らす働きかけがあれば、金額が高くなっても良いと思います。

自分自身が子どものときの給食より、品数が減っているように感じています。主にデザート回数が減っていると思います。実際に親になって給食を試食したことがありますが、栄養が考えられていて美味しいとは感じましたが、自分の子ども時代の給食と比べると、品数が少ないというのが感想です。

(関委員)

実際に食べたことがないので分かりませんが、今後、学校に行ったときに自分の目で見ながら感想をお話したいと思います。

(谷口委員)

金額的には安いと思いますが、1ヶ月のメニューを見てみると、炭水化物の料理が2品同時に提供される日が何度もあると感じています。そのようなメニューを見ると、この金額は高いと思います。保護者の声として学校側に給食をどうかして欲しいと申し入れたことがありますが、栄養士の先生に声が届くことはなく、そのまま流れてしまったことがあります。母親目線で見ると、炭水化物2品が給食で一緒に出されたら、しっかり栄養が取れないのではないかと思います。もし給食費金額を今後改定するのであれば、しっかりと栄養の取れるメニューにしていきたいと思います。

(池田委員)

自分の意見を述べる前に、炭水化物が2種類の献立とはどんな献立なのかお聞きしたいです。

(谷口委員)

パンと焼きそばというような組み合わせだったと思います。家庭ではそのような組み合わせで子どもに食べさせることはありません。千葉県外の給食を見に行く機会がありましたが、とても素晴らしく、また値段も安いと思いました。

(池田委員)

私は金額的にちょうど良いと思っています。ただ、好き嫌いをしない子であればお得で、残菜が多ければ高いと感じる一方で、家庭だと子どもの好きなものばかり出してしまうという傾向もあるかと思うので、その点で給食はありがたいです。

(渡邊会長)

ありがとうございます。では、栄養士の先生の立場からみなさんに発信しておきたいことがございましたらよろしくお願いします。

(坂井委員)

谷口委員の炭水化物メニューは、どこの市町村でも話題になります。それにお答えしますと、第一に食器の問題が生じます。普段ご飯をよそっているお茶碗に麺類を入れると、小中学生の栄養価を麺だけで満たすことができません。そして大きな食器を買えば済む問題かという、今度は配缶・食缶に入りきらないという問題が出てきます。また食器を変えると、消毒と保管をする熱風保管庫のスペースも足りなくなるという施設的な問題も生じます。以上のことから麺を給食で提供した場合、小型のパン等をつけなければ栄養価を補えない

現状があります。しかしながら、栄養士の立場でもパンと麺という組み合わせは、あまり進んで出すメニューではなく、パンと麺に更におかずを3品出せるかということ、非常に難しいです。

また食材料費についてですが、完食できるようなメニューであれば納得できるという先ほどのお話は、もっともだと思います。しかし、学校の栄養士は残菜率だけを気にしていれば、子どもの好きなハンバーグやスパゲティのみを出していれば良いことになります。残菜を出さないというエコな部分と食育は裏表な部分があり、栄養士としても葛藤があります。切干大根もそうですが、食べ慣れないかもしれないけれど大事な栄養素が入っているので、体にとってこんなに良い働きをするのだと教えつつ、「食べてみたい」という気持ちを持ってもらえるといいなと考えながら献立を立てています。

金額の面では、物価が上がっている関係でやりくりが難しくなっていることは日々感じています。それは、給食を見て分かる部分と、見ただけでは分からない部分があり、例えば国産の鮭と外国産の鮭を食べ比べても分からないとは思いますが、安心安全という面で国産を使いたくても、限られた予算内で物価も上昇しているために、現状は難しいです。

(渡邊委員)

坂井委員ありがとうございました。他にご質疑がないようですので、質疑終局と認めます。

## ②県内の学校給食費の状況について

(渡邊会長)

次に県内の学校給食費の状況について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：地曳副主幹)

私から、県内の学校給食費の状況についてご説明いたします。

平成28年5月初旬に、千葉県内54市町村へ調査依頼を行いました。18ページをご覧ください。

まずは、県内54市町村の給食費一食あたりの給食単価一覧です。それぞれの市町村でセンター方式のみや自校方式のみ、または本市のようにセンター・自校方式の2方式により実施しているところもございました。給食費は、センターと自校式で統一の給食費の場合や、センター方式・自校方式それぞれ給食費単価が違う場合もございました。また、学年によって金額が異なっていたり、年額・月額によるもの、実食数徴収によるものなどがありました。この資料は、年間給食回数による平均単価順に示してございます。

本市の給食費の金額は、小学校253円・中学校305円であり、県内54市町村中で、小学校39位・中学校25位にあたります。給食提供の方法に違いがございしますが、近隣3市の給食費の状況は、富津市は小学校265円・中学校328円 君津市は小学校250円・中学校310円 袖ヶ浦市は小学校222円・中学校264円でございます。

次に19ページをご覧ください。給食費改定の予定のある市町村です。54市町村中27市町村が検討中です。改定期間については、消費税率が10%に引き上げられた時や引き上



げによる物価上昇を考慮した平成29年度又は平成30年度に改定を検討している8市町村と、消費税率改正時と同時に改定の予定が3市町村です。

また、改定時期が未定の市町村も、改定理由には消費税率が8%になる際に改定しなかったため、消費税率10%になった場合に検討、物価上昇による食材料の値上がり等の理由によるものがございました。改定金額については、どこの市町村も未定との回答でした。

近隣市の君津市、袖ヶ浦市では、改定時期は未定で、理由については消費税5%から8%になる際に改定を行わなかったため、給食物資の物価上昇のため、賄材料費の高騰及び消費税率変動のためとのことでした。富津市は、4市の中でも給食費が一番高く、消費税10%になっても改定しない方向とのことでした。

次に20ページをご覧ください。給食費に助成がある市町村の一覧です。県内15市町村あり、内容は、直接給食費に係わるもの、地域米の提供や炊飯加工賃の補助、地場産物食材導入への補助によるもの、また家庭への経済的負担の軽減による援助などがありました。学校給食法の第11条には「受益者負担の原則」が謳われております。しかしながら「子育て支援政策」の一環や「食育」の一環として補助制度が設けられていることもございます。以上が給食費調査の結果です。

(渡邊会長)

説明は以上ですので、ご質疑がある方お願いいたします。

(武田委員)

この給食費は、あくまでも「食材料費」だと思いますが、その他に木更津市が税金をつぎ込んでいる人件費や光熱費について、もっとよく知る必要があると思います。給食を実施することによって雇用も生まれていますし、そのようなことを考慮すると、1食あたり253円、305円はとても安いと感じます。朝学校へ登校し、お昼には温かい給食が食べられるということに感謝しています。そこで質問があるのですが、給食は食材料費の他にどのくらいの費用がかかっているのか、もしお分かりであれば教えていただきたいです。

(事務局：吉原副主幹)

私からお答えします。食材料費を除いて、人件費、光熱費、施設費などにかかった費用は32校で年間7億1157万円です。

(事務局：岡田課長)

補足をいたしますと、木更津市全体の予算は430億円程度で運営をしております。そのうち、給食としては食材を除いて7億円です。食材費は6億円ですので、430億円のうち13億円が給食にかかる費用と言えます。

(渡邊会長)

他に関連質問はありますか。

(鈴木委員)

関連ではないかもしれませんが、木更津市のお米は木更津市産なのか教えていただきたいです。

(事務局：岡田課長)

まず、米飯については100%木更津市産の「ふさこがね」を使用しています。しかし、近隣3市は「こしひかり」を使用している中、木更津市のみ違う品種を使用している現状がございます。「こしひかり」に変える場合、1食あたり2円上がる見込みです。議会やJA農協から「こしひかり」を使ってほしいという要望が上がっています。

(鈴木委員)

私自身は、2円上がるならおかずを充実してほしいと思います。また他県では、お米等の産地についてもっとアピールをしているように思います。給食で木更津市産のお米を使っていることを保護者はあまり知らないのではないのでしょうか。そのようなアピールだったり、切干大根を毎回残すのであれば学習会を開いたり、大根農家に見学に行ったり等のはたらきかけが必要なのではないかと思います。そのような取り組みをやっていただきたいです。

(渡邊会長)

他にご質疑がありますか。

(池田委員)

先ほどのお話で富津市は近隣と比較しても給食費が高いとありましたが、この金額になったのはいつごろなのか、教えていただきたいと思います。

(事務局：地曳副主幹)

平成21年4月に改定をしているようです。

(坂井委員)

その当時、富津市の学校給食に携わっていましたが、平成21年の給食費改定は平成12年以来だったと思います。それまでの金額が1食たり小学校220円、中学校265円だったので、当面何があっても上げることができないという見込みで、一度に相当な値上げを実施しました。

(岡田課長)

富津市については、4市の中でも財政状況が良くないという現状があります。もし財政再建団体になった場合は国からの指導を受けない限り予算が組めない状況になるので、いろいろな予算を縮小しているところであると把握しています。

(谷口委員)

先ほどお米の話がありましたが、野菜については地元のものを使用しているのでしょうか。

(事務局：岡田課長)

お答えいたします。できるだけ市内のものを使用していただいたいと申し上げておりますが、なかなか難しい状況です。例えば北海道で大量生産したじゃがいもは木更津市産のものより安く、手に入りやすいのです。しかしながら、今年度に鎌足地区で生産した作物を鎌足小学校の給食で使用し、その残渣を肥料にするというような地産地消のモデルケースを

実施する予定であります。

(鈴木委員)

毎日は難しいかもしれませんが、「今日の給食は地元の食材だけの日」というような日を設定して、子どもたちが食べたくなるような取り組みをするのも良いかと思えます。

(坂井委員)

「木更津市」と限定すると食品の納品が難しく、木更津市産の野菜を持ってきて欲しいとお願いしても、個人商店さんの場合は難しい現状があります。ただ、時期によっては木更津市産、袖ヶ浦市産等が入りますので、近隣市も含めれば納品は可能です。また、現在も継続している取り組みとして地産地消デーというのが毎年11月にあり、千葉県産の食材をできるだけ使おうという日を設け、実施しています。

(渡邊会長)

みなさんのお考えは一緒だと思いますが、安心安全な食材を使用していただき、出来れば地元産でお願いしたいというところだと思います。他にご質疑はございませんか。

(白石委員)

袖ヶ浦市の給食費は、なぜこんなにも安いのか、お分かりになれば教えていただきたいです。

(事務局：地曳副主幹)

お答えいたします。袖ヶ浦市は給食費に助成金がついておりまして、1食あたり小学校で18円、中学校で21円となっております。それに加え、一律センター方式となっておりますので、一括購入できるという点でも金額が抑えられていると考えられます。

(坂井委員)

補足をいたしますと、袖ヶ浦市は、1施設のセンターで全小中学校を一括で賄っていますので、かなり金額が抑えられているはずです。

(鈴木委員)

木更津市はセンターが始まって、いろいろな自由が利かなくなったと感じています。昔は子どもにとって特別な「お誕生日給食」だったり、マラソン大会の後に「おしるこ」が提供されたりというような楽しみがありました。親になってからも、給食費が私会計から公会計になったときにマラソン大会のおしるこが提供できなくなりました。以前のような給食を盛り込んでいただけたら嬉しいし、それならば値上げにも納得できます。

(渡邊会長)

他にご質疑、ご意見はございませんか。

(事務局：岡田課長)

私からで申し訳ありませんが、現在の米飯の「ふさこがね」を「こしひかり」にすべきなのか、ご意見を伺いたしたいと思います。品種を変えると2円割高になりますが、「こしひかり」のほうが美味しいから給食に出してほしい、又は2円かかるのであればおかずの質を上げてほしい等の率直なご意見があればお伺いしたいと思います。

(武田委員)

新米であれば「こしひかり」でも「ふさこがね」でも美味しいと思います。しかし給食で提供されるのは新米とは限らないと思います。私は君津市でも木更津市でも給食を食べましたが、どちらのお米が美味しい等の違いはわかりませんでした。ブランドにはあまり拘っていません。

(谷口委員)

お米もそうですが野菜も木更津市産が良いと思います。農家の方から直接聞いた話ですが、大量に余った野菜は捨ててしまうそうです。テレビ等のメディアでは、地元産のみかんを学校給食に取り入れて、市全体が栄えたという話を放送していました。できれば木更津市の米、野菜を使っていたきたいと思います。

(事務局：岡田課長)

とくに米のブランドには拘らないということでもよろしいでしょうか。(意義なし)

(事務局：岡田課長)

もうひとつ質問がございます。木更津市は6億円を食材料費に投入しておりますが、袖ヶ浦市のように食材料費の一部を補助金として支出している自治体もございます。例えば本市も補助金等を導入するのは是か非か、そういったご意見も伺いたいと思います。議会でも無料化等の話は出ております。しかし消費した者が払うという原則と、学校給食法において食材費は保護者負担であるということが謳われています。その中で、少子化対策の一環であることと、食育の一環であることで助成を行っている自治体がございます。

(鈴木議員)

補助金には賛成です。給食費を払えずにいる食べられない子が無料化によって食べられるという配慮の点からも良いと思います。児童手当のような制度は家庭において実際にその子のために使われているのか不透明な部分がありますが、給食費であれば絶対にその子のために使われるので、無料化には賛成です。

(関委員)

それがもし実現できれば、木更津市民全員が喜ぶと思います。

(武田委員)

例えば、1食あたり50円の補助を市から出したとして、未納者の滞納状況は改善されるのでしょうか。

(事務局：岡田課長)

お答えいたしますと、袖ヶ浦市が実際に補助を出していますが徴収率には影響はないとことです。助成金は一般会計から支出されるため、保護者を介して実施されるものではなく、手元に残るものが何もないためです。補助金があること自体、保護者には分かりにくいと思います。

(鈴木委員)

補助金も一部だと、あまり有難みがないのだと思います。

(事務局：岡田課長)

ところが、自治体によっては保護者が直接分かる補助金システムもありまして、神崎町は前年度の未納がない家庭には翌年度の給食費を半額還元するという方式を取っています。ただし、神崎町は人口約6,000人ですので、木更津市の児童生徒約10,000人という中では神崎町のような細かなシステムは難しいと思います。

(鈴木委員)

噂で聞いたことがあるのですが、未納者がいるとおかずが一品減るといふ話は本当ですか。

(事務局：岡田課長)

それはありません。現在は市からの公金ですので、未納者の給食費は税金で賄っています。

(渡邊会長)

いろいろな意見が出ましたが、保護者の方々からの立場であれば、補助金は賛成ということではよろしいでしょうか。(異議なし)

それでは質疑終局と認めます。

### ③栄養士による給食費算定結果について

(渡邊会長)

次に栄養士による算定会議の結果について、事務局から説明をお願いします。

(山之上栄養士)

では、私から栄養士による算定会議の結果について、ご説明いたします。平成27年度に各学校栄養士による給食食材料の調査を実施しました。22ページと23ページをご覧ください。

給食食料として使用した肉類や野菜類、果物類といった食品のグループごとに、高値と低値を調べ、食品1kgあたりの平均価格を算出しました。続いて24ページをご覧ください。上の表が食品項目ごとの平均価格です。下の表は、牛乳、パン、米の主要品目の価格表です。算定会議が今年2月にありましたが、その時点での値上がり分は未定であったため数値がゼロとなっています。続いて25ページをご覧ください。この表は、小学校の1食あたりの給食食料費を算出するための表です。文部科学省より、学校給食における食品の望ましい摂取量の基準である「学校給食摂取基準」に基づき、先ほどの1kgあたりの平均価格を摂取基準の食品構成表の重量単位に落としこみ算出しています。それぞれ、パンの日の食品構成価格、米飯の日の食品構成価格を求めました。そこから、現在の木更津市の米飯回数基準(136回)、パンの回数基準(55回)をかけて、年間給食回数191回で割り返すと、1食あたりの給食食料費が算出されます。

その結果、小学校の食料費は、289.19円という結果となりました。

中学校の結果が次の26ページとなります。同じように算出し、中学校の1食あたりの食料費は、352.46円となりました。保護者の方より徴収している給食費は、小学校で2

53円、中学校で305円ですので、小学校で36.19円、中学校で47.46円の不足という結果となりました。

また、参考資料として物価上昇から見た給食費金額の資料も作成しております。29ページをご覧ください。消費者物価指数を使用した給食費の金額です。

総務省より平成22年度を基準とした平成27年度の食料品の物価平均を数値として示しています。平成27年度の指数は107.2でしたので、7.2%の上昇となっています。この数値を用いて給食費を算出すると小学校278円、中学校335円となりました。

次に、学校給食で提供している米、パン、牛乳という主要な品目についての物価上昇について示した資料もございます。P33ページをご覧ください。現在の学校給食費253円、305円という金額に改定された平成20年度から、どれくらい主要品目の物価が値上がったかを示しています。この間には消費税が5%から8%へ改定されています。

米飯、パン及びパンの加工賃、牛乳という3品目の物価上昇金額、消費税増額分の金額を足すと、小学校275円、中学校330円となりました。

(渡邊会長)

ありがとうございました。ご質疑はございますか。(質疑なし)

では、事務局より補足説明はございますか。

(事務局：岡田課長)

私から補足させていただきます。栄養士の算定資料の結果でいうと、県内市町村の給食費順位に落とし込めば小学校で第3位、中学校で第4位となります。あくまでもしっかりと理論のある信憑性の高い算定結果ですが、県内で比較すると高額となり、なかなか認められにくい金額であると考えられます。皆様に最終的に答申をいただくこととなりますが、この金額をそのまま使うというわけにはいかないだろうと思います。

(渡邊会長)

この結果は、あくまで資料としてお考えになっていただくということでよろしいかと思えます。それでは質疑終局と認めます。

(事務局：岡田課長)

私から最後に資料の説明をさせていただきます。平成26年度末で2,400万円ほどの滞納がございます。ただ、滞納率で申し上げますと99%は納付がある状況でございます。1%の方が滞納しているという状況ですので、滞納整理については学校と協力をして進めていきたいと思えます。

#### 議題4. 今後の審議スケジュールについて

(渡邊会長)

それでは今後の審議スケジュールについて事務局より説明をお願いします。

(事務局：岡田課長)

本スケジュールは、仮に学校給食費を改定するという場合の逆算で計画を立てておりま

す。出来るだけ年内には学校側や保護者の皆様へお知らせをする必要があると考えております。答申をまとめた後に教育長、市長に説明をし、校長会でも説明をさせていただき翌年度の予算に反映させるという手順になります。市の翌年度予算は今年度の10月に組みますので、このような日程表となっております。第2回の検討委員会では、今回いただいたご意見を含めて事務局案を提示いたしますので、その案に再度ご意見をいただき、第3回目で最終的に答申をまとめていただきたいと思います。

最後に社会情勢として、政府の消費税率の値上げについて、現在も不透明な部分がございます。10%に上げる時期が決定されれば、他市の給食費の検討状況も明確になると考えられます。そういった他市の動向も視野に入れ検討したいと思いますので、状況によっては日程が多少ずれる可能性もあります。その点をご了承いただければと思います。

(渡邊委員)

いずれにしても教育委員会議、教育民生常任委員会等の開催の前に答申をまとめるということによろしいかと思えます。他にご質疑がないようですので、質疑終局と認めます。それでは第1回学校給食費検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。

(16時10分終了)